

(4) 今後の課題

国民、患者が考える重要課題は、これまでと同様「夜間休日・救急医療の整備」、
「長期入院施設等の整備」であった。特に今回は「長期入院施設等の整備」という回
答が多く、療養病床削減などに対する国民や患者の不安が大きいことが示唆された。

一方、在宅医療については、国民の間では家族やヘルパー等の人的資源が不足して
いるとの回答が多かった。

かかりつけの医師がいる人は国民の約半数で、医師の幅広い能力や 24 時間体制の
ほか、他の医療機関との情報共有がニーズとして挙げられた。

また、国民の約 8 割は医療に格差が生じることに反対であり、所得の高低にかかわ
らず同じ医療を期待することについては、過去 2 回の調査と大きな変化がなかった。

日本の医療全般に満足しない理由のトップは、国民の医療費負担であった。また国
の医療費抑制政策に対する国民の意識も高まっていることも判明した。厳しい経済環
境の中、国民が今後、社会保障への不安や不満を一層強める可能性がある。

一方、医師の間でも、医療全般に対する不満が極めて高かった。医療従事者の確保
ができず、医師不足の問題を抱え、個別医療への努力を行いながらも、患者との信頼
関係に不安を持ち、患者からの訴訟を危惧している実態が浮かび上がった。多様な患
者への対応に苦慮しており、患者の問題行動にも約 6 割の医師が遭遇している。

今後の検討においては、調査から明らかになった国民、患者のニーズに応えるのと
ともに、医師のニーズにも応えていくことが必要である。